



# 日中韓で育む地域資源を活かした魅力づくり ～第21回日中韓3か国地方政府交流会議より～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

2019年10月28日から31日にかけて、「第21回日中韓3か国地方政府交流会議」が開催されました。

当会議は、日本、中国、韓国の3か国地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的として、自治体国際化協会、中国人民対外友好協会、大韓民国市道知事協議会が1999年より輪番制で毎年開催しているもので、今回は愛媛県で開催されました。

## 愛媛県主催歓迎レセプション

愛媛県では「G20 愛媛・松山労働雇用大臣会合」を開催するなど、国際会議等の誘致に積極的に取り組んでおり、愛媛県主催歓迎レセプションで、中村知事からは、「地方交流が平和への力になる」との力強いお言葉とともに、「この会議が少子化や介護など共通の課題を解決するヒントになれば嬉しい」との挨拶がありました。

また、レセプションでは遍路文化で培われた「おもてなしの心」とともに、県産品を使った料理の提供や郷土を象徴するアトラクションが披露されました。

## 会議概要

今回の会議は、日本から53団体・240人、中国から86団体・190人、韓国から20団体・51人が参加する過去最大規模の会議となり、各テーマについて活発な議論が展開されました。

## 基調講演

株式会社今治・夢スポーツの岡田代表取締役会長からは、FC今治による地域のボランティア活動やワークショップなどを通じた地域活性化の取り組みを紹介いただいたほか、ご自身の経験から、地方政府間による「草の根（グラスルーツ）の交流」の重要性をご講話いただきました。

## 主旨講演

愛媛県の神野副知事からは、従来の歴史的・文化的建造物や自然景観などの地域資源に加え、「しまなみサイクリング」をはじめとするプレミアムなコンテンツの振興や地域の魅力情報を発信するデジタルプロモーションの取り組みについて発表いただきました。

次に、済州研究院の金院長からは、済州特別自治道における事例として、地域資源の国連機関への登録や「オルレ」の普及活動のほか、6次産業化による収益拡大策など、持続的な地域づくりの取り組みについて発表いただきました。

最後に、河南省鄭州市の王市長からは、国際的なハブ都市としての地理的な強みを活かし、友好都市の拡大や国際会議等の誘致に積極的に取り組んでいる状況について発表いただきました。

### 本会議のプログラム〔10月29日〕

<b>基調講演「今治からの挑戦」</b> 株式会社今治・夢スポーツ代表取締役会長 岡田武史
<b>主旨講演</b> <b>「北東アジア地方政府における地域資源を活かした魅力の創造」</b> 【日本】愛媛県副知事 神野一仁 【韓国】済州研究院院長 金東柱 【中国】河南省鄭州市市長 王新偉
<b>パネルディスカッション1</b> <b>「地域資源を活用した体験型観光の振興」</b> 【韓国】在福岡大韓民国総領事館領事 林玄根 【中国】安徽省池州市副市長 傅金光 【中国】遼寧省大連市副秘書長 刘愛博 【日本】岐阜県高山市海外戦略部長 田中明
<b>パネルディスカッション2</b> <b>「持続可能な開発目標（SDGs）を軸としたまちづくり」</b> 【中国】北京市城市計画設計研究院副院長 何琴 【中国】重慶市沙坪壩区宣伝部長 戸邑 【日本】神奈川県理事 山口健太郎 【韓国】慶尚北道国際関係大使 朱重徹
<b>パネルディスカッション3「高齢化社会への対応」</b> 【日本】福岡県福岡市副市長 荒瀬泰子 【韓国】韓端大学教授 秋漢喆 【中国】江西省人民対外友好協会会長 赵慧 【中国】遼寧省人民対外友好協会副秘書長 李承志



## パネルディスカッション

### パネルディスカッション 1

在福岡大韓民国総領事館の林領事からは、全羅南道における事例として、観光パッケージづくりのほか、各種商品開発の取り組みについて発表いただきました。

次に、安徽省池州市の傅副市長と遼寧省大連市の刘副秘書長からは、さまざまな要素を組み合わせることで新たな体験型観光の創出に取り組まれている状況を発表いただきました。

最後に、岐阜県高山市の田中部長からは、外国人旅行者が「ありのままの暮らし」を体験できるように、行政と民間事業者が一体となってインバウンドの受入れ態勢を整えている状況について発表いただきました。

### パネルディスカッション 2

北京市の何副院長からは、首都・北京市の発展のため、都市と農村の調和的な発展の必要性について発表いただき、重慶市戸部長からは、環境保護、文化繁栄、経済活動に適した都市建設プランについて発表いただきました。

次に、神奈川県山口理事からは、自治体 SDGs モデル事業となっている「SDGs 社会的インパクト実証評価プロジェクト」等の取り組みについて発表いただきました。

最後に、慶尚北道の朱国際関係大使からは、韓国の経済発展の原動力となった「セマウル運動」の成功要因や現在の展開状況について発表いただきました。



パネルディスカッションの様子

### パネルディスカッション 3

福岡市の荒瀬副市長からは、「福岡 100」のコンセプトの紹介とともに、医療・健康・介護のビッグデータの活用等について発表いただきました。

次に、韓端大学の秋教授からは、韓国における認知症の現状について紹介いただき、その後、京畿道高陽市、慶尚南道南海郡、全羅南道長城郡における認知症対策の事例を発表いただきました。

最後に、江西省人民対外友好協会の趙会長からは、高齢者の消費強化による経済発展と高齢化に伴うサービス

産業の充実化の必要性を発表いただき、遼寧省人民対外友好協会の李副秘書長からは、日本の介護人材育成を参考にした高齢化対策について発表いただきました。

## 交流広場

交流広場とは、各国の自治体同士が交流できる広場のことで、事前に 23 団体の申込みがありました。

当日は事前申込みの自治体以外にも交流希望が多く、急遽マッチングをすることもありましたが、名刺交換にとどまらず積極的に意見交換するなど、担当者同士による活発な交流で盛り上がりました。

## エクスカージョン

本会議終了後は、愛媛県内の視察ツアーを実施しました。30日は松山市で松山城や道後温泉周辺を散策した後、内子町の町並み散策や宇和島市でのみかんの収穫体験を行いました。また、31日は松山市で井関松山営業所を視察した後、今治市でしまなみサイクリング体験を行うとともに、タオル美術館を視察しました。

参加者からは、「愛媛県の地域資源を存分に堪能でき、有意義だった」、「帰国後は早速、地域資源の掘り起こしをしたい」との感想を得ることができました。

## 会議を終えて

日本、中国、韓国は歴史的、地理的に見れば密接な関係性や多くの共通点もありますが、課題解決への本質的な捉え方やアプローチは異なっているため、参加者が各国地方政府の取り組みに熱心に耳を傾けている姿が非常に印象的でした。

当会議はこれまで各国地方政府間の交流促進と課題解決のプラットフォームとしての役割を担ってきていますが、毎年、参加者の規模も拡大し、20年前に蒔かれた交流の種が大きな草の根となって着実に育ち続けていることを実感しました。

## 次期開催のお知らせ

2020年の当会議は、韓国・光州広域市において開催されます。今後の情報は、随時当協会のホームページ等を通してご案内いたします。日中韓3か国の地域間交流と協力を深める絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。